

道小渡島・北斗大会及び第75回全連小東京大会の参加割当等 田邊 芳明 研修部副部長

まず、第66回道小渡島・北斗大会への参加期待数について説明させていただく。令和5年度の会員数については現在調査中なので、令和4年度の会員数に基づき割り当てている。開催地区の渡島地区は100%、同じ第3ブロックの函館、檜山地区は70%、その他の地区は50%の割合として算出することを基本としている。そのまま計算すると、参加者は全体で512名ほどとなる。

しかし、来年度の渡島・北斗大会で予定している分科会場は、感染防止措置を施しての収容人数が、現在のところ470名程度と試算している。そこで、開催地区及び、同じ第3ブロックの割り当て数はそのままにして、それ以外の地区の割り当て数を、計算して出した人数からから およそ1割程度差し引くことで、超過する42名分を相殺することができたので、その数を「割当数」として示している。

なお、発表者がいる分科会は、3名以上となるように配置した。また、令和6年度に発表が当たっているところは、若干ではあるが多めに配置した。今回の資料は、令和5年度の会員数が明らかになるまでの暫定資料として確認いただきたい。なお、令和5年度の会員数は若干減少する見込みである。最終的な割当については、来年2月に開催される第5回理事研修会で改めて示させていただく予定である。感染症の状況等によっては、割当が変更となる場合もあることも了承願いたい。また、「渡島・北斗大会分科会一覧」については、全国大会の動向を踏まえて検討しているが、今年度と大きな変更はないことを承知おき願いたい。

次に、第75回全連小研究協議会東京大会について説明させていただく。日時は令和5年10月19日、20日、全体会場は東京国際フォーラム、分科会場は東京都心の複数のカンファレンスセンターを中心に開催される。

分科会は、13分科会で構成されており、北海道からの発表は、空知地区が第1分科会「経営ビジョン」の視点①を担当、留萌地区が第7分科会「研究・研修」の視点①を担当することとなっている。2つの地区の皆様、よろしくお願ひ申し上げます。

東京大会の参加期待数について、東京大会実行委員会から割り当てられた数は今年度の島根大会の2倍近い97名となっている。この数は、従来の割当に戻して算出した数となっているため、それに従い、各地区においても従来通りの10%の人数で割り当てさせていただいた。

東京大会で発表が当たっている空知地区、留萌地区については、担当する分科会において発表者のみとならないよう3名体制を確保している。また、札幌は参加人数の内数となる役員が多いことから、従来通りの21名としている。そのような関係で、他地区の割当数を若干調整させていただいたことを了承願いたい。

各地区の参加期待数を確認いただき、準備をお願い申し上げます。